

未来に残せるものは何？



と、環境の大切さを子どもたちに学んでもらおうと、今までの試みから得た経験を生かして、今年七月に完成させたのが「ソーラービオトープ」です。ビオトープ内の水を循環させるため設置されたポンプの動力は、ソーラーパネルによる発電で賄われており、自然と人の知恵が合体して一つの生態系が保たれる仕組みです。

こうしてグループは、自分たちの目指す「ゼロエミッション（廃棄物を出さない考え方）」社会実現のため、積極的に市民への情報発信を行っています。

北海道をエコランドに

グループの代表を務める新保さんは活動の基本について、次のように話します。「基本は『次世代の環境』を守るために、何ができるかを考えることです。私たち大人は、子どもたちの将来のことを考えるならもつと環境に関心を向けるべきでしょう。私も母親として、子どもに何をしてあげられるかを考えた時、身近にある自然を残してあげたいと思いました」。新保さん自身も、父親との虫捕りや川遊びを通じて意識しないうちに環境保全の大切さを学んだそうです。今では新保さんのお子さんもグル

ープの活動を理解し、活動の中で使う紙芝居作りに参加するようになりました。

平成十二年にグループを立ち上げて以来、多様な活動を行ってきた中で、印象に残っていることとして、新保さんは、大通公園のソーラーイルミネーションを挙げます。風と日光が頼りのシステムでしたが、日照不足の悪条件の下でも、イルミネーションをとまずこができたそうです。何よりも感激したのはそのとき行ったアンケートで、「今後は自分も環境問題について考える」と前向きな反応が返ってきたことでした。たくさんの人たちに環境保全について考えてもらうためには、このような目に見える分かりやすい活動が有効なのだと感じたと言います。

「今後、次世代の子どもたちに今の札幌の素晴らしい環境を残してあげることが目標ですが、それだけにとどまらず、多くの人たちに環境保全について考えるきっかけを提供することで、エコロジ（生態環境）文化といったものを北海道に定着させることができたいですね。一言でいえば『北海道をエコランドに』というのが最終目標なのです」と新保さんは活動への思いを語ります。

西野平和幼稚園にソーラービオトープ完成！

7月19日、西野平和幼稚園（西区平和3条8丁目）に「ひまわりの種の会」が作製したソーラービオトープが完成しました。動力装置のスイッチが入られ、噴水や滝から水がほとばしると、見守っていた園児たちから大きな歓声が上がりました。

また、グループのメンバーにより、環境保護やビオトープを紹介する紙芝居「妖精グリリンにお願い」の読み聞かせも行われ、園児たちは楽しく環境保護の大切さを学びました。

ビオトープとは...

ビオトープとは、さまざまな生き物が持続して生きていけるように、池や植物などを配置した空間を意味します。札幌でも環境教育のため、小学校に配置を進めています。



◀ ソーラーパネルの働きを園児に説明する新保さん

園児たちも興味津々



ビオトープ全景。「あっメダカ！」「オタマジャクシもいるよ」水中を見つめる園児たち



紙芝居で環境保護の大切さを教えるグループのメンバー